

(調査)

天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題 (1)

—アンケート調査の結果と考察—

藤 森 雄 介

キーワード

仏教社会福祉 天台宗

要約

本研究は日本の仏教宗派のひとつである天台宗の社会福祉実践に関する調査結果の報告及び考察である。

明治時代以降、我が国の社会福祉事業の形成・発展過程において、宗教とりわけ仏教が果たしてきた役割は大きいと一定の評価はなされている。しかし、その全体像に関しては、個別の寺院や社会福祉実践家などを除いてこれまで十分には調査研究がなされてこなかった。

天台宗についていえば、社会福祉に関する取り組みや「一隅を照らす運動」を行なうなど、教団として社会的な活動に取り組んでいる側面のあることは概に良く知られている一方で、全国に3345ヶ寺ある天台宗寺院の住職等の社会福祉実践に関する実態調査はこれまで行なわれることはなかった。

本稿では、特に調査の前半部分で行なった社会福祉実践に関する各寺院の現状についての集計結果を報告するとともに、そこから浮かびあがってきた諸課題について一考察を試みている。

1. はじめに

洋の東西を問わず、社会福祉の歴史的展開過程を検討する場合に宗教との関連性を抜きに論を進めることが出来ないことは周知のことであるが、我が国において永くその役割を担ってきたのは仏教であることも、また異論のないことと思う。

しかし、我が国の社会福祉の歴史形成における仏教の担ってきた役割等を明らかにしてきた先行研究は概ね近代までにとどまっております⁽¹⁾、特に戦後社会における仏教社会福祉事業の実態についての研究は、ほとんど未着手の状態であった。

上記のような問題意識のもと、平成12～平成14年の3カ年をかけて「戦後仏教系社会福祉事業の歴史と現状に関する総合研究」(文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(B))(1)研究代表者:長谷川匡俊)が組織され、各教団のご理解とご協力により、戦後の仏教系教団

ふじもり ゆうすけ: 淑徳大学 国際コミュニケーション学部 人間環境学科 准教授

全体が担った社会福祉事業やそれに連なる諸活動の歴史的展開の全体像を俯瞰し得る資料を提示することができた⁽²⁾。

しかし一方、この研究を通じて、平準的な数値によって各教団と仏教社会福祉事業の「今」を知ることが難しいという新たな課題にも直面することとなった。例えば、ある教団では宗務に関わる職務の一つとして「社会福祉」部門の配置や各種協議会等の設置、定期的な情報収集や各種事業を行っている。一方、ある教団では、社会福祉に関わる諸活動は実質的には各寺院住職に一任している。また、多くの教団で一定年数ごとに行なわれている「宗勢調査」にも、必ずしも社会福祉に関する項目が複数用意されているわけではない。つまり、教団ごとに社会福祉の捉え方に少なからずの差異があり、その結果、各教団内で行なわれている社会福祉事業の実態把握や情報量にもばらつきが見られ、更には客観的な数値に基づく宗派別や社会福祉分野での比較分析を困難にし、「仏教社会福祉」の今後の方向性を検討する際の大きな障壁となってしまうのである。

この新たな課題への対応は、一定程度共通の質問項目を並べた調査票を用意し、教団ごとに所属する全寺院へのアンケート調査を実施するという方法が考えられる。

幸いにして、筆者のこのような問題意識と研究方法に複数の教団からご理解をいただくことができ、実際に調査を行わせて頂くことができている⁽³⁾、伝教大師最澄を開祖として連綿と続く伝統と諸実践の歴史を併せ持つ天台宗についても⁽⁴⁾、宗務庁からの全面的なご支援を頂いて、平成17年度に「天台宗 社会福祉事業・活動に関するアンケート調査」を実施することができた。

本調査内容は、「寺院」の活動実態と、「住職」の活動実態及び意識の2つに大別することができるが、本稿においては、(紙面の関係上)まず前者の「寺院」の活動実態に関して単純集計結果と、そこから浮かび上がってくる課題について考察を試みたものである。

2. 調査概要

(1) 調査の目的

天台宗における社会福祉実践・活動の現状と実態の明確化を図るとともに、その結果と他教団の調査結果との比較分析等を行なうことにより、仏教系社会福祉事業の今後の方向性についての検討を行うことを主たる目的とする。

(2) 調査の対象

天台宗全寺院3345ヶ寺院(『宗教年鑑』平成14年版による)のうち、天台宗『宗報』等の発送先寺院2645ヶ寺院を対象とする。つまり、実質的な全数調査である。

(3) 調査の方法

自記式の調査票を用いた郵送配布・郵送回答調査を実施。

(4) 調査の期間

- 2 調査日は、2005年3月1日現在として調査を依頼。ただし、回収率を優先するため、第1回の調査依頼の後、未回答の寺院については、2005年5月に再度調査を依頼し、2006年12月末日までの回答を有効とした。

(5) 回収の結果

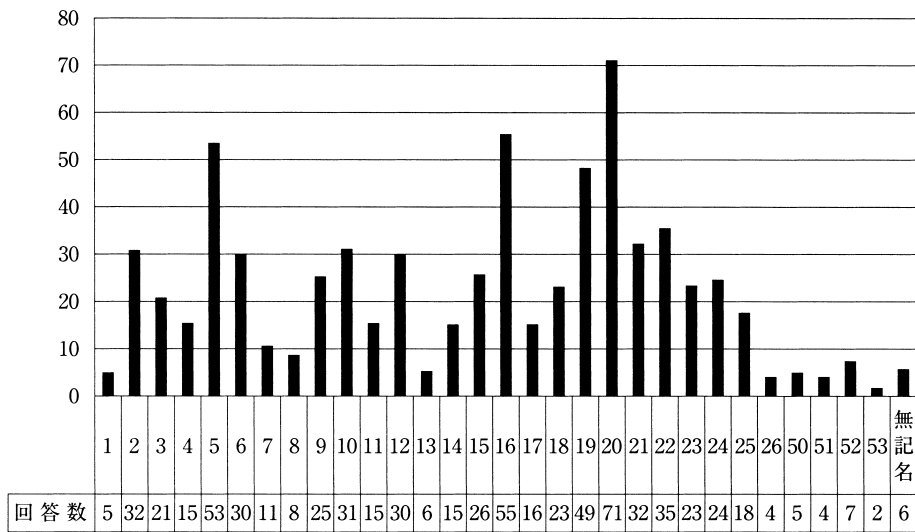
第1回依頼分の回答数は381ヶ寺院(14.40%)、第2回再依頼分の回答数は316ヶ寺院(11.97%)、合計の回答数は697ヶ寺院(26.35%)であった。

(6) その他

- ・自由回答の一部には設問の趣旨にそぐわないのもみられたが今回の集計では、記入者の意見を最大限に尊重した。
- ・調査の質問項目によって明らかな回答間違いや記入ミスが確認できるものに関しては、エディティングの中で訂正等を行なっている。したがって、有効回答数は各質問項目ごとに提示する。
- ・回答率(%)は、小数点以下第3位を四捨五入してあるため、合計が100%にならない場合がある。

3. 調査結果

(1) 基本属性について



教区別回答数

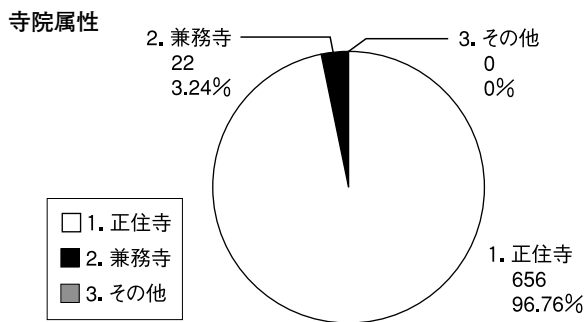
※教区番号対照表

1	滋賀	10	福岡 佐賀	20	群馬
2	滋賀	11	三重 岐阜	21	茨城
3	京都	12	愛知 静岡	22	栃木
4	和歌山 奈良	13	福井	23	福島
5	兵庫	14	長野 新潟	24	宮城 岩手
6	岡山	15	神奈川	25	山形
7	鳥取 島根	16	東京	26	北海道
8	香川 徳島 愛媛	17	千葉	50	その他
9	大分 宮崎	18	千葉	51	その他
		19	埼玉	52	その他
				53	その他
				無記名	無記名

返送数を教区ごとにみていくと、有効回答数697件のうち、「群馬」が71件（10.19%）と最も多く、次いで「東京」が55件で7.89%、「兵庫」が53件で7.60%、「埼玉」が49件で7.03%、「栃木」が35件で5.02%、「滋賀」と「茨城」がともに32件で4.59%の順となった。しかし、この結果は、母数となる教区ごとの寺院数が異なるため、今後は母数となる教区ごとの寺院数に対しての返送率をみていく必要があろう。

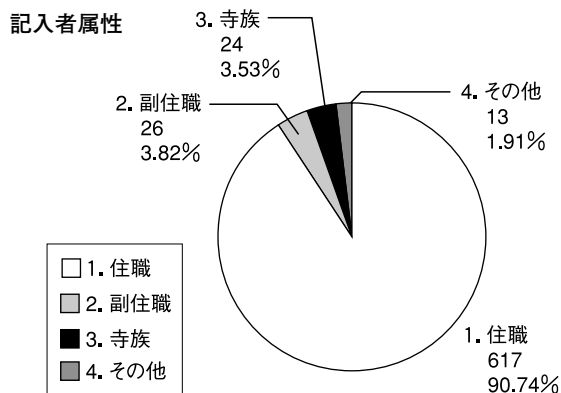
◆寺院属性

設問	1. 正住寺	2. 兼務寺	3. その他	合計
件数	656	22	0	678
%	96.76%	3.24%	0.00%	100%



◆記入者属性

設問	1. 住職	2. 副住職	3. 寺族	4. その他	合計
件数	617	26	24	13	680
%	90.74%	3.82%	3.53%	1.91%	100%



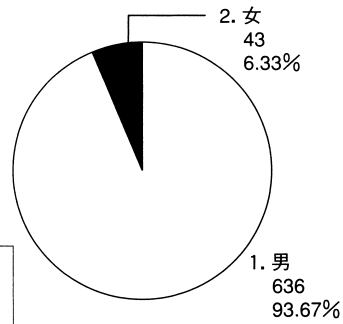
4

記入者属性では、「住職」が617件で90.74%と最も多く、次いで「副住職」が26件で3.82%、「寺族」が24件で3.53%の順となった。

◆性別

設問	1. 男	2. 女	合計
件数	636	43	679
%	93.67%	6.33%	100%

性別



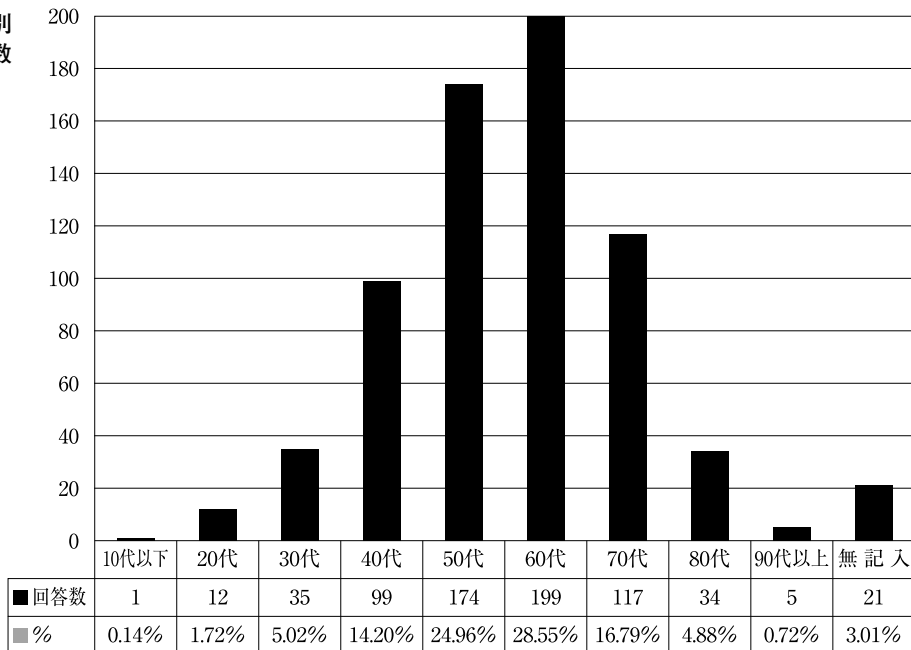
◆年齢

平均	全体平均	男性平均	女性平均
歳	59.80	60	55

◆年代別回答数

年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	無記入	合計
件数	1	12	35	99	174	199	117	34	5	21	697
%	0.14%	1.72%	5.02%	14.20%	24.96%	28.55%	16.79%	4.88%	0.72%	3.01%	100%

年代別回答数



基本属性のうち、回答者の性別（有効回答数679件）は、「男」が636件で93.67%、「女」が43件で6.33%となった。⁵

また、回答者の年齢（有効回答数697件）は、全体の平均年齢は59.80歳であり、「男」の平均年齢が60歳、「女」の平均年齢が55歳となった。

さらに、年齢を年代別にみても、60歳代の回答が199件で28.55%と最も多く、次いで50歳代が174件で24.96%、70歳代が117件で16.79%、40歳代が99件で14.20%の順となった。

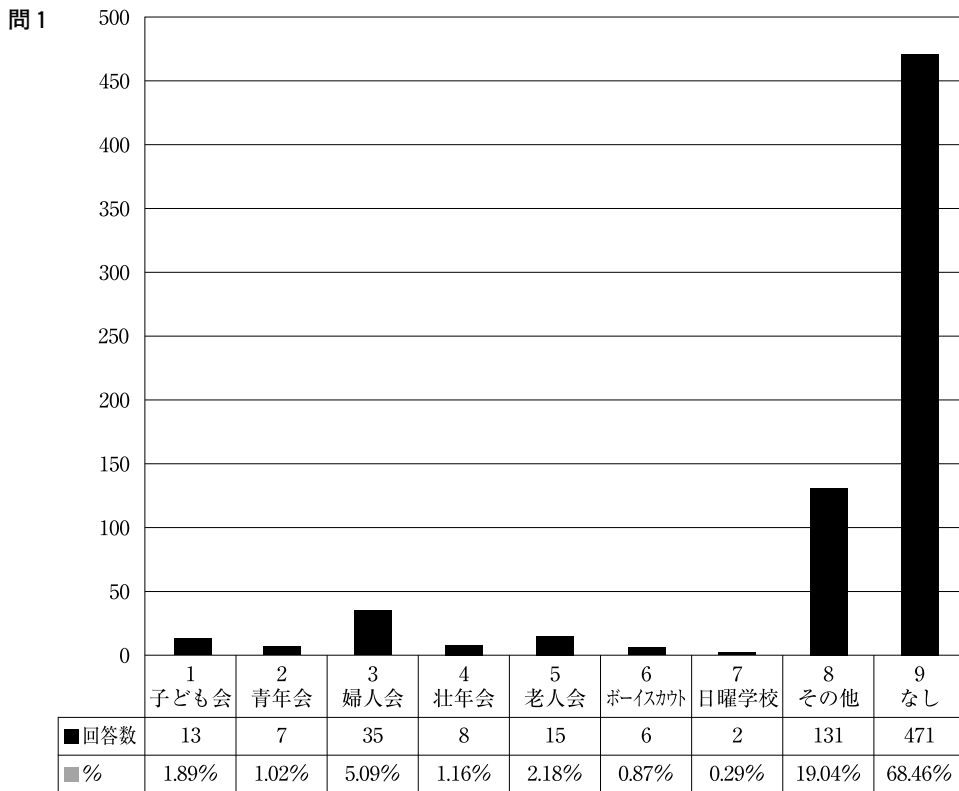
（2）寺院の社会福祉事業実践について

<問1>

問1 貴寺院では、次のような教化団体を主宰されていますか。
 回答欄の中より該当するものすべてを選び、番号に○をつけて下さい。なお、「8」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

◆回答数

設問	1. 子ども会	2. 青年会	3. 婦人会	4. 壮年会	5. 老人会	6. ボーイ スカウト	7. 日曜学校	8. その他	9. なし	8. 記述	合計
件数	13	7	35	8	15	6	2	131	471	140	688
%	1.89%	1.02%	5.09%	1.16%	2.18%	0.87%	0.29%	19.04%	68.46%		100%
1～8	5.99%	3.23%	16.13%	3.69%	6.91%	2.76%	0.92%	60.37%			100%



6

問1の有効回答数は688件である。そのうち、教化団体を主宰している寺院は217ヶ寺であり、有効回答数に対して31.54%となる。一方、教化団体を主宰していない寺院は68.46%（471ヶ寺）であり、主宰している寺院よりも主宰していない寺院の方が36.46%上回る結果となった。

具体的に主宰している内容を見ると、「婦人会」が35団体と最も多く、主宰している寺院

の中で16.13%を占め、次いで「老人会」が15団体（主催寺院中6.91%）、「子ども会」が13団体（主催寺院中5.99%）、「壮年会」が8団体（主催寺院中3.69%）、「青年会」が7団体（主催寺院中3.23%）、「ボーイスカウト」が6団体（主催寺院中2.76%）、「日曜学校」が2団体（主催寺院中0.92%）の順となった。

なお、「8. その他」と回答した131件のうち、具体的に記述があったものは140件である。

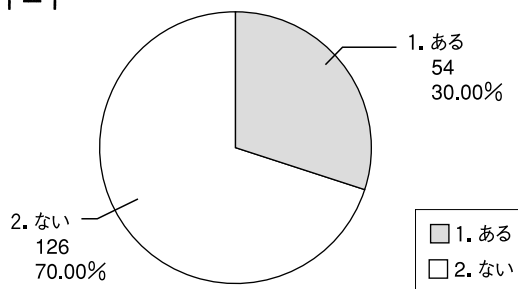
<問1-1>

問1-1 問1において、「1～8」の番号のいずれかに○をつけた方のみお答え下さい。
 現在行われている種々の会の活動の中に、「ボランティア（社会奉仕）」と
 考えられるものがありますか。
 回答欄の中より該当するものどちらかを選び、番号に○をつけて下さい。
 なお、「1」を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内
 容を記入して下さい。

◆回答数

設問	1. ある	2. ない	〇〇会	活動内容	合計
件数	54	126	89	79	180
%	30.00%	70.00%			100%

問1-1



問1-1の有効回答数は180件である。そのうち、活動の中に「ボランティア（社会奉仕）」と考えられるものが「ある」と回答したものが54件で30.00%であり、「ない」と回答したものが126件で70.00%であり、「ボランティア（社会奉仕）」以外の活動を行なっている寺院の方が多い結果となった。

また、「ボランティア（社会奉仕）」を行なっていると回答したうち、具体的な会の名称があったものが89件、活動内容が記載されていたものが79件あった。なお、この数が「ある」と回答した件数よりも上回っているのは、複数の活動を行なっているためである。

7

<問2>

問2 貴寺院以外の寺院が主宰する教化団体に参加されていますか。
 回答欄の中より該当するものどちらかを選び、番号に○をつけて下さい。

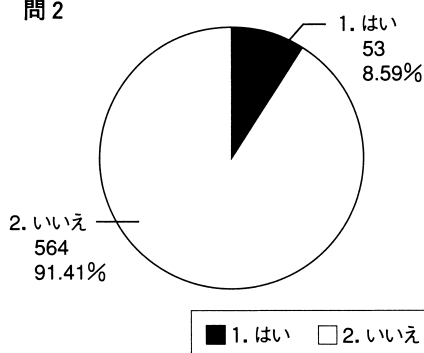
天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（1）

◆回答数

設問	1. はい	2. いいえ	合計
件数	53	564	617
%	8.59%	91.41%	100%

問2の有効回答数は617件である。そのうち、「貴寺院以外の寺院が主宰する教化団体」に参加していると回答したものは53件で8.59%、参加していないと回答したものは564件で91.41%となった。

問2



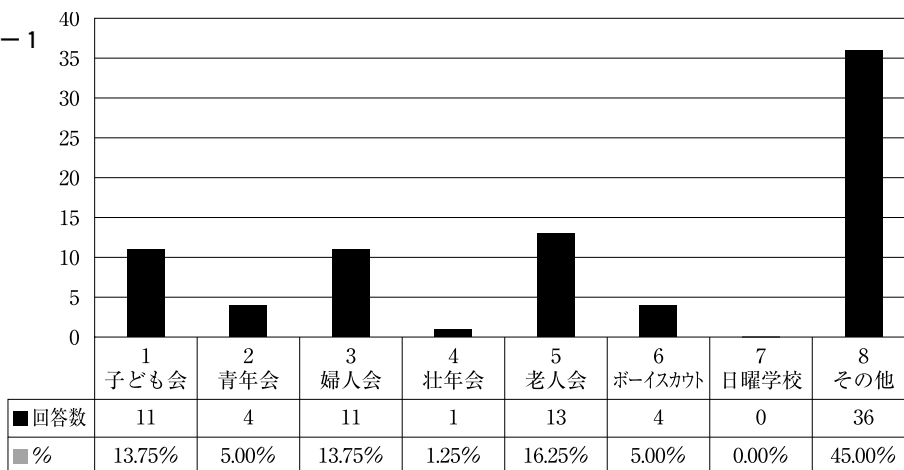
<問2-1>

問2-1 問2において、回答欄に「1. はい」に○をつけた方のみお答え下さい。
 どのような教化団体に参加していますか。
 回答欄の中より該当するものすべてを選び、番号に○をつけて下さい。
 なお、「8」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、
 具体的な内容を記入して下さい。

◆回答数

設問	1. 子ども会	2. 青年会	3. 婦人会	4. 壮年会	5. 老人会	6. ボーイ スカウト	7. 日曜学校	8. その他	8. 記述	合計
件数	11	4	11	1	13	4	0	36	35	80
%	13.75%	5.00%	13.75%	1.25%	16.25%	5.00%	0.00%	45.00%		100%

問2-1



問2-1の有効回答数は80件である。そのうち、「老人会」が13件で16.25%と最も多く、次いで「子ども会」と「婦人会」がともに11件で13.75%、「青年会」と「ボーイスカウト」がともに4件で5%の順となった。

なお、「8.その他」の回答は36件で45.00%であり、そのうち具体的な記述があったものが35件であった。

<問3>

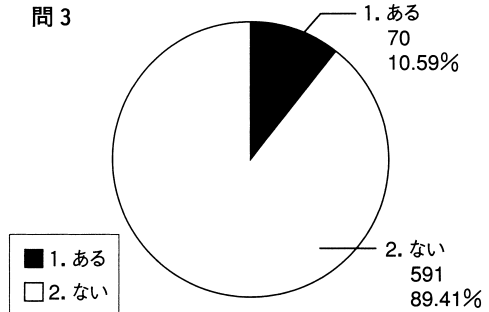
問3 貴寺院には、貴寺院が関係する社会福祉事業関連施設がありますか。
 回答欄の中より該当するものどちらか一つを選び、番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. ある	2. ない	合計
件数	70	591	661
%	10.59%	89.41%	100%

問3の有効回答数は661件である。そのうち、「貴寺院が関係する社会福祉事業関連施設」が「ある」と回答したものが70件で10.59%であり、「ない」と回答したものが591件で89.41%となった。

問3



◆以下、問3-1～問3-8までの質問は、問3において、回答欄「1. ある」に○をつけた方のみお答え下さい。

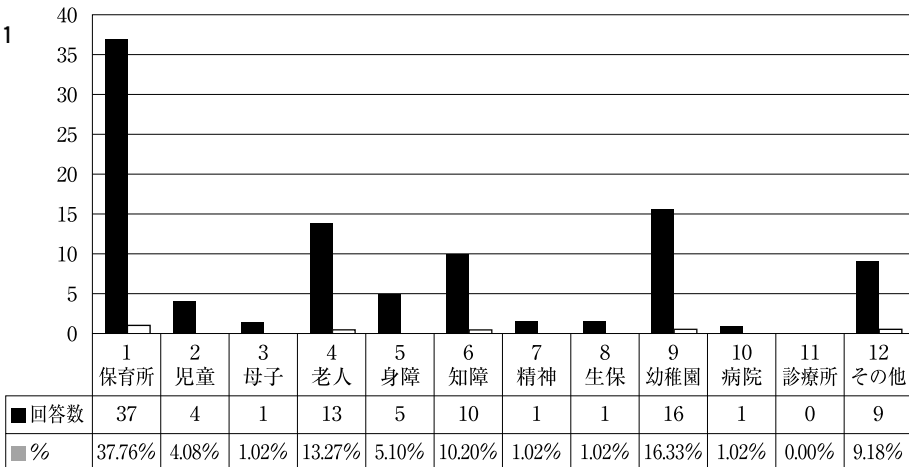
問3-1 問3に該当するものすべてを選び、回答欄の番号に○をつけるとともに、それぞれ()のなかに具体的な施設名を記入して下さい。

- | | | |
|---------------------|--------------|---------|
| 1. 保育所又は保育園 | 5. 身体障害児・者施設 | 9. 幼稚園 |
| 2. (障害児関係を除く)児童関係施設 | 6. 知的障害児・者施設 | 10. 病院 |
| 3. 母子関係施設 | 7. 精神障害者施設 | 11. 診療所 |
| 4. 老人関係施設 | 8. 生活保護施設 | 12. その他 |

◆回答数

設問	1. 保育所	2. 児童	3. 母子	4. 老人	5. 身障	6. 知障	7. 精神	8. 生保	9. 幼稚園	10. 病院	11. 診療所	12. その他	合計
件数	37	4	1	13	5	10	1	1	16	1	0	9	98
%	37.76%	4.08%	1.02%	13.27%	5.10%	10.20%	1.02%	1.02%	16.33%	1.02%	0.00%	9.18%	100%

問3-1



天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（1）

問3-1の有効回答数は98件である。「貴寺院が関係する社会福祉事業関連施設」のうち、「保育所又は保育園」が37件で37.76%と最も多く、次いで「幼稚園」が16件で16.33%、「老人関係施設」が13件で13.27%、「知的障害児・者施設」が10件で10.20%、「児童関連施設」が4件で4.08%、「母子関係施設」と「精神障害者施設」と「生活保護施設」と「病院」がともに1施設で1.02%となった。

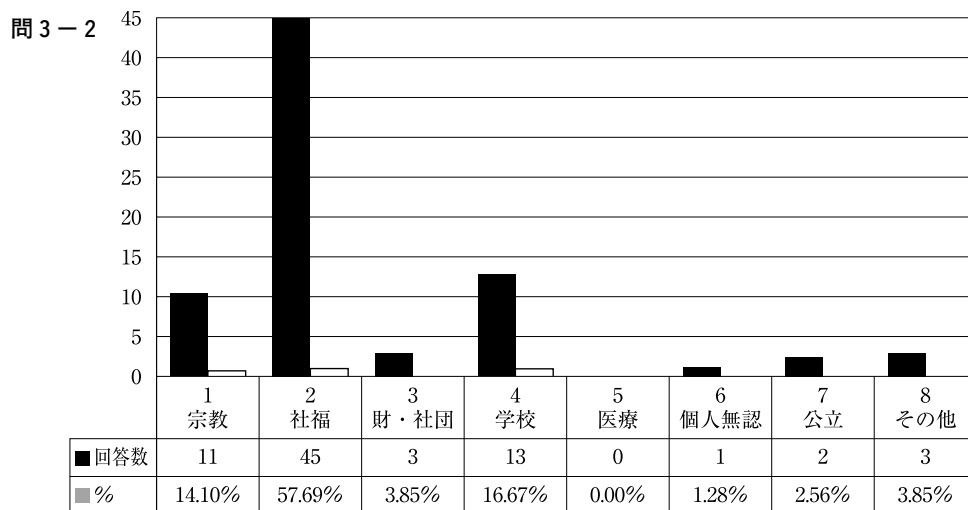
また、「12.その他」と回答したものは9件で9.18%であった。

<問3-2>

問3-2 当該施設の設置主体はどこですか。
 該当するものすべてを選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。なお、「8」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。
 ※問3-1において複数の関係施設があるとお答えいただいた場合は、お手数ですが、それぞれ（ ）のなかに当該施設名をご記入下さい。

◆回答数

設問	1. 宗教	2. 社福	3. 財・社団	4. 学校	5. 医療	6. 個人無認	7. 公立	8. その他	8. 記述	合計
件数	11	45	3	13	0	1	2	3	1	78
%	14.10%	57.69%	3.85%	16.67%	0.00%	1.28%	2.56%	3.85%		100%



10

問3-2の有効回答数は78件である。「当該施設の設置主体」のうち、「社会福祉法人」が45件で57.69%と最も多く、次いで「学校法人」が13件で16.67%、「宗教法人」が11件で14.10%、「財団・社団法人」が3件で3.85%、「公立」が2件で2.56%、「個人・無認可」が1件で1.28%の順であった。

また、「8.その他」と回答したものが3件で3.85%であり、そのうち1件の記述がみられた。

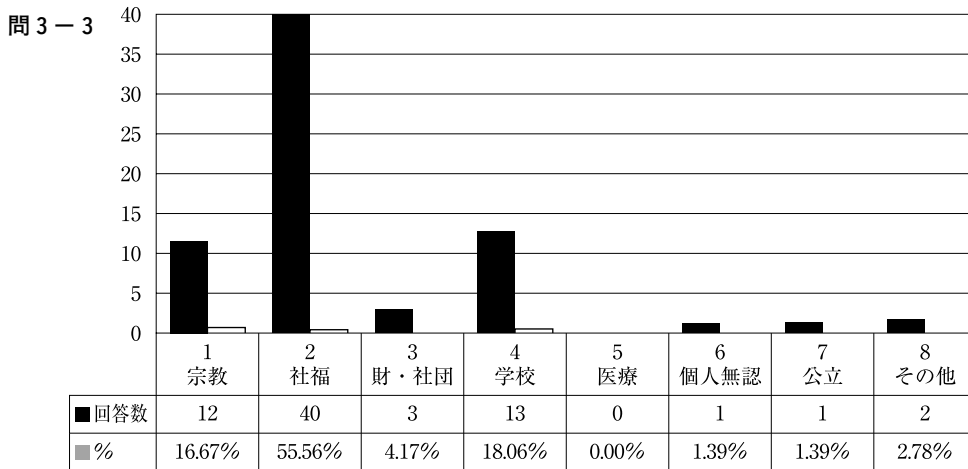
<問3-3>

問3-3 当該施設の設置主体はどこですか。
 該当するものすべてを選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。なお、「8」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

※問3-1において複数の関係施設があるとお答えいただいた場合は、お手数ですが、それぞれ（ ）のなかに当該施設名をご記入下さい。

◆回答数

設問	1. 宗教	2. 社福	3. 財・社団	4. 学校	5. 医療	6. 個人無認	7. 公立	8. その他	8. 記述	合計
件数	12	40	3	13	0	1	1	2	1	72
%	16.67%	55.56%	4.17%	18.06%	0.00%	1.39%	1.39%	2.78%		100%



問3-3の有効回答数は72件である。「当該施設の運営主体」について、「社会福祉法人」と回答したものが40件で55.56%と最も多く、次いで「学校法人」が13件で18.06%、「宗教法人」が12件で16.67%、「財団・社団法人」が3件で4.17%、「個人・無認可」と「公立」がともに1件で1.39%の順であった。

また、「8.その他」と回答したものは2件で2.78%であり、そのうち1件の記述がみられた。

11

問3-2と問3-3をみると、施設の設置主体と運営主体は、件数、割合ともにほぼ同じであるという結果となった。

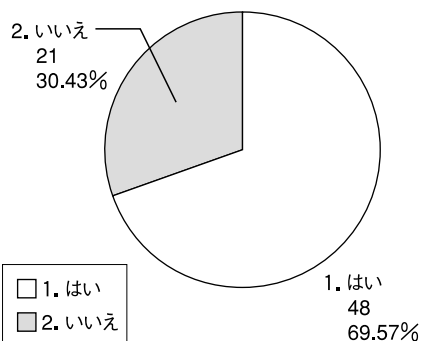
<問3-4>

問3-4 当該施設の運営にあたっては、ご住職以外の寺族が関わっていますか。
 該当するものをどちらか一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。
 なお、複数の施設がある場合には、そのなかの主たる施設を念頭にお答え下さい。

◆回答数

設問	1. はい	2. いいえ	合計
件数	48	21	69
%	69.57%	30.43%	100%

問3-4



問3-4の有効回答数は69件である。そのうち、「ご住職以外の寺族」が当該施設の運営に関わっていると回答したものが48件で69.57%、「ご住職以外の寺族」が当該施設の運営に関わっていないと回答したものが21件で30.43%となり、当該施設の運営に「ご住職以外の寺族」が関わっている方が39.13%上回る結果となった。

<問3-5>

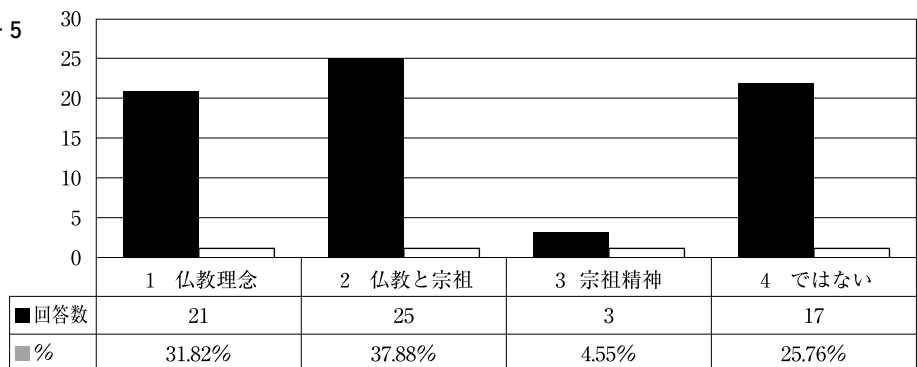
問3-5 当該施設は、仏教の理念または宗祖の精神に基づいて設立されていますか。
 該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。
 なお、複数の施設がある場合には、そのなかの主たる施設を念頭にお答え下さい。

1. 仏教の理念に基づいて設立されている
2. 仏教の理念と宗祖の精神に基づいて設立されている
3. 宗祖の精神に基づいて設立されている
4. 仏教の理念や宗祖の精神に基づいて設立されていないわけではない

◆回答数

設問	1. 仏教理念	2. 仏教と宗祖	3. 宗祖精神	4. ではない	合計
件数	21	25	3	17	66
%	31.82%	37.88%	4.55%	25.76%	100%

問3-5



問3-5の有効回答数は66件である。そのうち、当該施設が「仏教の理念と宗祖の精神に基づいて設立されている」と回答したものが25件で37.88%と最も多く、次いで「仏教の理念に基づいて設立されている」と回答したものが21件で31.82%、「仏教の理念や宗祖の精神に基づいて設立されているわけではない」と回答したものが17件で25.76%、「宗祖の精神に基づいて設立されている」と回答したものが3件で4.55%の順となっており、「仏教の理念」または「宗祖の精神」に基づいて設立されている施設が49件で74.24%という結果となった。

<問3-5-①>

◆以下、問3-5-②から問3-5-②-2までの質問は、問3-5において、回答欄「1」「2」「3」に○をつけた方のみお答え下さい。

問3-5-① その理由について、該当するものをすべて選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。なお、「12」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

1. 寺院を母体にして運営しているから
2. 法人の定款等に、仏教の理念に基づく旨の記載があるから
3. 設立の精神が、仏教の理念に基づいているから
4. 実践が、仏教の理念に基づいているから
5. 仏教に基づく日課活動や行事があるから
6. 創設者、または理事長・施設長等の実質的な責任者が仏教の僧侶ないし篤信者であるから
7. 法人の定款等に、宗祖の精神に基づく旨の記載があるから
8. 設立の精神が、天台宗の理念に基づいているから
9. 実践が、宗祖の理念に基づいているから
10. 宗祖の精神に基づく日課活動や行事があるから
11. 創設者、または理事長・施設長等の実質的な責任者が天台宗の教師であるから
12. その他（ ）

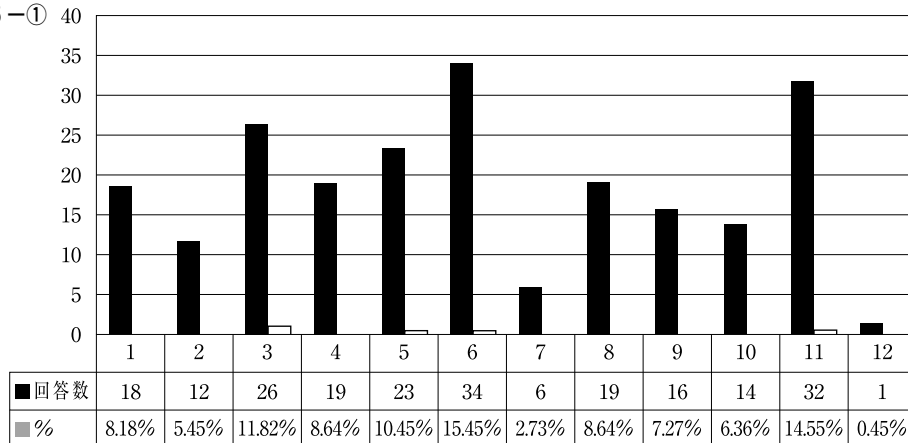
◆回答数

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	12 記述	合計
件数	18	12	26	19	23	34	6	19	16	14	32	1	1	220
%	8.18%	5.45%	11.82%	8.64%	10.45%	15.45%	2.73%	8.64%	7.27%	6.36%	14.55%	0.45%		100%

問3-5-①の有効回答数は220件である。そのうち、「6. 創設者、または理事長・施設長等の実質的な責任者が仏教の僧侶ないし篤信者であるから」と回答したものが34件で15.45%と最も多く、次いで「11. 創設者、または理事長・施設長等の実質的な責任者が天台宗の教師であるから」と回答したものが32件で14.55%、「3. 設立の精神が、仏教の理念に基づいているから」と回答したものが26件で11.82%、「4. 実践が、仏教の理念に基

天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（1）

問3-5-①



いているから」と「8. 設立の精神が、天台宗の理念に基づいているから」がともに19件で8.64%、「1. 寺院を母体にして運営しているから」と回答したものが18件で8.18%、「9. 実践が、宗祖の理念に基づいているから」と回答したものが16件で7.27%、「10. 宗祖の精神に基づく日課活動や行事があるから」と回答したものが14件で6.36%、「2. 法人の定款等に、仏教の理念に基づく旨の記載があるから」と回答したものが12件で5.45%、「7. 法人の定款等に、宗祖の精神に基づく旨の記載があるから」と回答したものが6件で2.73%の順となった。

また、「12. その他」と回答したものは1件で0.45%である。

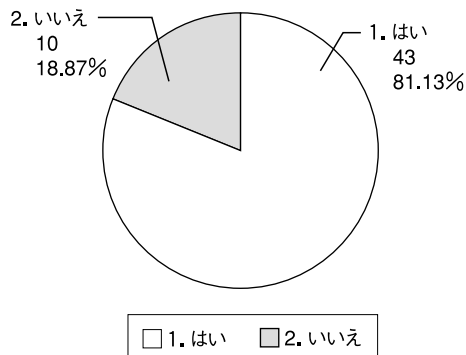
<問3-5-②>

問3-5-② 当該施設では、仏教の作法にのっとり日課活動または行事などが行われていますか。該当するものをどちらか一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. はい	2. いいえ	合計
件数	43	10	53
%	81.13%	18.87%	100%

問3-5-②



14

問3-5-②の有効回答数は53件である。そのうち、当該施設において「仏教の作法にのっとり日課活動または行事」などを行なっていると回答したものが43件で81.13%であり、「仏教の作法にのっとり日課活動または行事」などを行っていないと回答したものが10件で18.87%となった。

<問3-5-②-1>

問3-5-②-1 問3-5-②において回答欄に「1. はい」に○をつけた方のみお答え下さい。

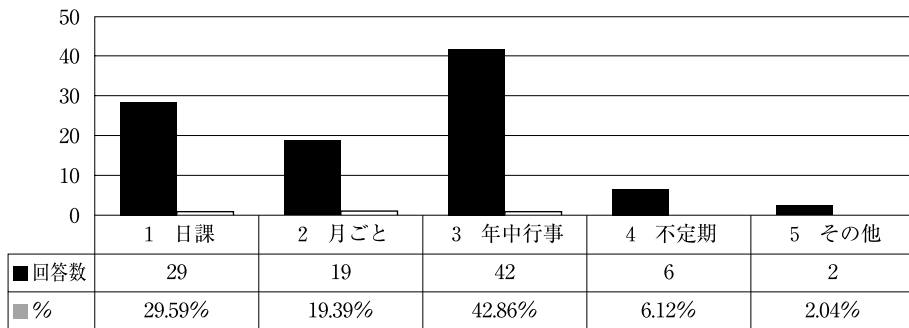
その仏教の作法にのっとり日課活動または行事は、どのくらいの頻度で行なわれていますか。該当するものをすべて選び、回答欄の番号に○をつけるとともに、()のなかに、できる限り具体的な内容を記入して下さい。

1. 日課として行なわれている活動や行事 3. 年中行事として行なわれている活動や行事
 2. 月ごとに行なわれている活動や行事 4. 不定期に行なわれている活動や行事
 5. その他 ()

◆回答数

設問	1. 日課	1. 内容	2. 月ごと	2. 内容	3. 年中行事	3. 内容	4. 不定期	4. 内容	5. その他	5. 内容	合計	内容合計
件数	29	32	19	25	42	47	6	6	2	2	98	112
%	29.59%		19.39%		42.86%		6.12%		2.04%		100%	
%		28.57%		22.32%		41.96%		5.36%		1.79%		100%

問3-5-②-1



問3-5-②-1の有効回答数は98件であり、具体的内容の記述は112件である。そのうち、「3.年中行事として行なわれている活動や行事」が42件（内容記述47件）で42.86%と最も多く、次いで「1.日課として行なわれている活動や行事」が29件（内容記述32件）で29.59%、「2.月ごとに行なわれている活動や行事」が19件（内容記述25件）で19.39%、「4.不定期に行なわれている活動や行事」が6件（内容記述6件）で6.12%の順であった。

なお、「5.その他」と回答したものは2件（内容記述2件）で2.04%であった。

<問3-5-②-2>

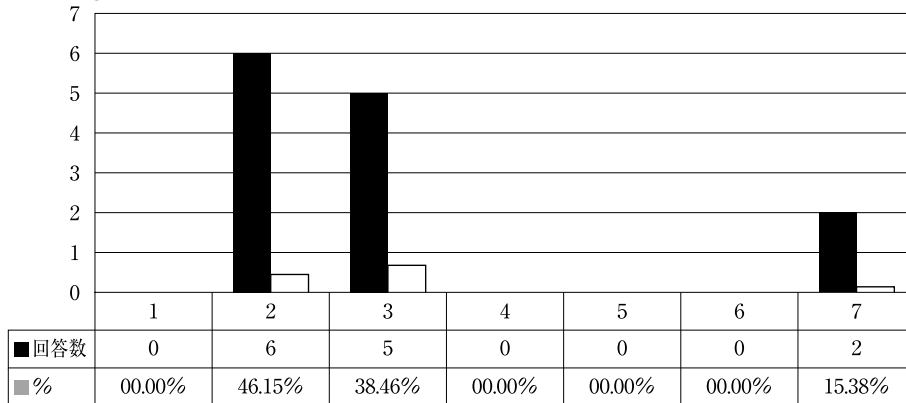
<問3-5-②-2>
 問3-5-②-2 問3-5-②において、回答欄「2. いいえ」に○をつけた方のみ
 お答え下さい。
 その理由について該当するものをすべて選び、回答欄の番号に○を
 つけて下さい。なお、「6」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）
 のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

1. 憲法の「信教の自由」に違反するから
2. 措置費等、公的な資金によって経営されている施設だから
3. 職員・利用者に暗黙の強制となりがちだから
4. 日常生活で、職員・利用者に不公平が生じるから
5. 行政指導があるから
6. 利用者より、直接反対意見があったため
7. その他（ ）

◆回答数

設問	1	2	3	4	5	6	7	7 記述	合計
件数	0	6	5	0	0	0	2	5	13
%	0.00%	46.15%	38.46%	0.00%	0.00%	0.00%	15.38%		100%

問3-5-②-2



16 問3-5-②-2の有効回答数は13件である。そのうち、「2.措置費等、公的な資金によって経営されている施設だから」と回答したものが6件で46.15%、次いで「3.職員・利用者に暗黙の強制となりがちだから」と回答したものが5件で38.46%の順であり、「その他」と回答したものは2件で15.38%であった。

<問3-6>

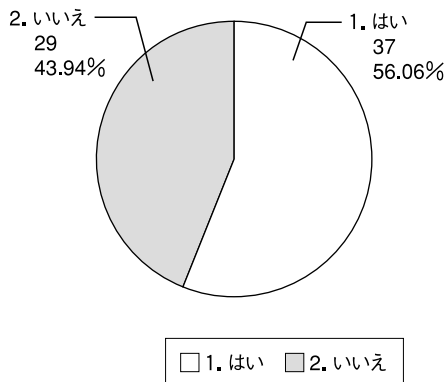
問3-6 施設で求人募集する際や就職説明会等において、仏教理念に基づく施設であることを示していますか。
該当するものをどちらか一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. はい	2. いいえ	合計
件数	37	29	66
%	56.06%	43.94%	100%

問3-6の有効回答数は66件である。そのうち、「施設で求人募集する際や就職説明会等において、仏教理念に基づく施設であることを示して」と回答したもの（「1. はい」と回答）が37件で56.06%、「施設で求人募集する際や就職説明会等において、仏教理念に基づく施設であることを示して」と回答したもの（「2. いいえ」と回答）が29件で43.94%となった。

問3-6



<問3-7>

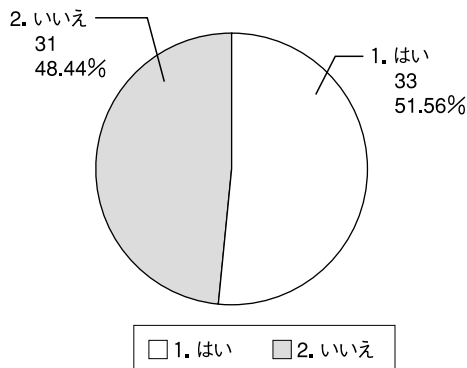
問3-7 施設では利用者の入所にあたって、仏教理念に基づいた施設であることがわかるような説明もしくはパンフレット等への記載による対応をしていますか。
該当するものをどちらか一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. はい	2. いいえ	合計
件数	33	31	64
%	51.56%	48.44%	100%

問3-7の有効回答数は64件である。そのうち、「施設では利用者の入所にあたって、仏教理念に基づいた施設であることがわかるような説明もしくはパンフレット等への記載による対応」と回答したもの（「1. はい」と回答）が33件で51.56%、「施設では利用者の入所にあたって、仏教理念に基づいた施設であることがわかるような説明もしくはパンフレット等への記載による対応」と回答したもの（「2. いいえ」と回答）が31件で48.44%となった。

問3-7



<問3-8>

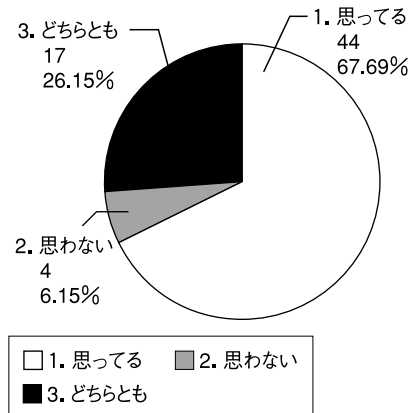
問3-8 仏教理念に基づく施設のあり方は、利用者にとって処遇の向上につながっていると思いますか。
 該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. 思ってる	2. 思わない	3. どちらとも	合計
件数	44	4	17	65
%	67.69%	6.15%	26.15%	100%

問3-8の有効回答数は65件である。そのうち、「仏教理念に基づく施設のあり方は、利用者にとって処遇の向上につながっている」と「思う」と回答したものが44件で67.69%、「思わない」と回答したものが4件で6.15%、「どちらともいえない」と回答したものが17件で26.15%となった。

問3-8



<問3-9>

◆以下、問3-9から問3-10までの質問は、問3で、回答欄「2. ない」に○をつけた方のみお答え下さい。

問3-9 以前の状況についてお尋ねします。
 該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。なお、「1」を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、施設名を記入して下さい。

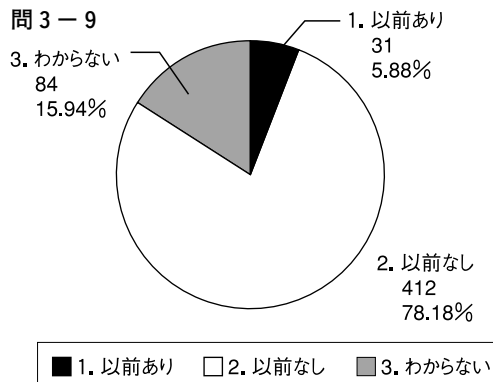
◆回答数

設問	1. 以前あり	2. 以前なし	3. わからない	記述	合計
件数	31	412	84	30	527
%	5.88%	78.18%	15.94%		100%

問3-9の有効回答数は527件である。そのうち、「以前は社会福祉事業関連施設があったが、今はない」と回答したものが31件で5.88%、「以前から、社会福祉事業関連施設はない」と回答したものが412件で78.18%、「以前のことはわからないが、現在はなし」と回答したものが84件で15.94%であった。

なお、「以前は社会福祉事業関連施設があったが、今はない」と回答したうち、30件の具体的記述がみられた。

問3-9



<問3-10>

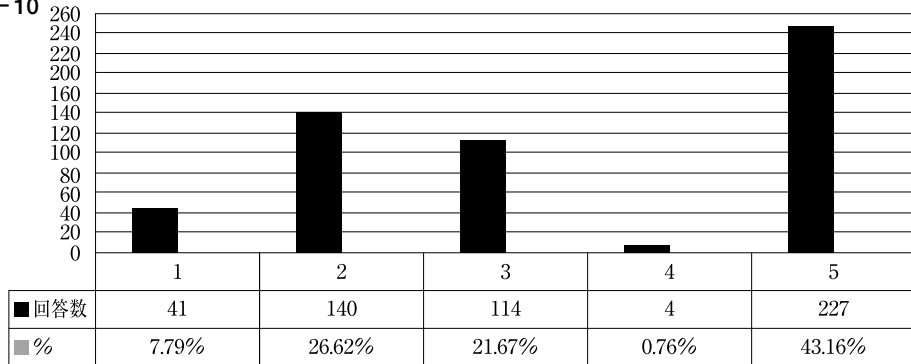
問3-10 社会福祉事業関連施設を持たない理由について、該当するもの一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

1. 寺院として、社会福祉事業実践そのものに関心が無い
2. 寺院として、社会福祉事業実践には関心はあるが、施設運営には関心が無い
3. 寺院として、社会福祉事業実践には関心があり、施設運営にも関心はあるが実際には行っていない
※差し障りがなければ関心のある内容を具体的にご記入下さい ()
4. 寺院として、社会福祉事業実践には関心があり、現在検討中である
※差し障りがなければ関心のある内容を具体的にご記入下さい ()
5. 寺院として、社会福祉事業以外の実践（布教活動など）に取り組むことでよいと思うから

◆回答数

設問	1	2	3	4	5	合計
件数	41	140	114	4	227	526
%	7.79%	26.62%	21.67%	0.76%	43.16%	100%

問3-10



問3-10の有効回答数は526件である。社会福祉事業関連施設を持たない理由として、最も回答数が多かったものは「5. 寺院として、社会福祉事業以外の実践（布教活動など）に取り組むことでよいと思うから」であり227件で43.16%、次いで「2. 寺院として、社会福祉事業実践には関心はあるが、施設運営には関心が無い」が140件で26.62%、「3. 寺院として、社会福祉事業実践には関心があり、施設運営にも関心はあるが実際には行っていない」が114件で21.67%、「1. 寺院として、社会福祉事業実践そのものに関心が無い」が41件で7.79%、「4. 寺院として、社会福祉事業実践には関心があり、現在検討中である」が4件で0.76%となった。

なお、「3. 寺院として、社会福祉事業実践には関心があり、施設運営にも関心はあるが実際には行っていない」と回答したうち、65件の記述がみられ、「4. 寺院として、社会福祉事業実践には関心があり、現在検討中である」と回答したうち、3件の記述がみられた。

4. 調査結果関する留意点及び今後の課題

以上、本調査における基本属性及び寺院の社会福祉事業実践（問1～問3-10）について単純集計結果を記したが、ここでは、それぞれの数値結果に関する留意点や今後の課題等について若干の考察を述べておきたい。

（1）基本属性について

本調査の回答率は26.35%と2割強であり、この回答率自体が「寺院の社会福祉事業・活動」という本調査のテーマに対する天台宗の関心の度合を示すものであるとみることができるともいえる。また現在、複数の教団を対象に同様の調査を順次実施しているが、回答率の数値自体が宗派別の比較分析を行う際に意味を持つてくると思われる⁽⁵⁾。

さらに、回答実数に関しては、教区別に回答数をまとめたが、当然、教区ごとに寺院数は異なっているため、回答実数の多い地域＝社会福祉事業に対する意識・関心の高い地域という特性を示すものではない。しかし、「地域社会」とのかかわりが問われる昨今、今後、他教団の調査結果が出揃って行く中では、地域横断的に数値を再整理して比較分析を行う必要があろう。

なお、記入者の年齢構成や性別等についても、他教団との比較の中で天台宗の特性が明らかになっていくと考えられる。

（2）寺院の社会福祉事業実践について

問1および問2は、寺院における教化活動に関する取り組みを問いつつ、その活動の中に社会福祉に関連する（と記入者が考えている）ものがどの程度行われているのかを明らかにするための項目である。特に自坊で主催する教化活動の中にボランティア（社会奉仕）活動を含むと回答（問1-1）した件数が54件で有効回答数の3割あり、その具体的な活動内容も福祉施設への支援や交流、募金活動、清掃活動、海外支援など多岐にわたっており、「教化活動」や「ボランティア（社会奉仕）」の捉え方が非常に幅広いことが明らかとなった。なお、本調査では、広くご住職等（記入者）の意見を反映させるため、教化活動およびボランティア活動についての定義等の説明をせずに回答いただいたが、今後、他教団との比較検討を行う際には、その定義や具体的な内容も吟味して行う必要があるといえよう。

問3～問3-3は、寺院が関係する社会福祉事業関連施設の有無及び設置形態について明らかにするための項目である。調査結果をみると、社会福祉事業関連施設の実数は決して多いとはいえないが、視点を変えてみると、この数値は今後の天台宗の社会福祉事業関連施設の展望の可能性を示すものともいえよう。また、現在の社会福祉は社会福祉事業・活動＝社会福祉関連施設の運営や活動とは限らず、NPOや任意団体等の新しい形での社会福祉事業・活動が展開されており、必ずしも社会福祉事業関連施設数が少ない＝社会福祉の関心が低いというわけではないことも注意しなければならない。

問3-4は、施設運営と寺族との関わりを明らかにするための項目である。天台宗の状況としては、施設運営に住職以外の寺族が関わるケースが全体の約7割という結果になったが、この結果が天台宗固有の状況か、他教団共通の状況であるかは今後の比較検討の中で明らかにしていきたい。

問3-5は、当該施設における設立理念や日課・行事活動等における仏教的要素の有無を明らかにするための項目である。この質問項目を設けたことによって、寺院における仏教社

会事業・活動の現状の一端をそれぞれ数値として明確にすることができた。本項目を通じて特徴的な点をあげれば、当該施設の設立理念（問3-5）において、「仏教の理念と宗祖の精神に基づいて設立されている」と回答したものが25件で37.88%と最も多く、次いで「仏教の理念に基づいて設立されている」と回答したものが21件で31.82%、「仏教の理念や宗祖の精神に基づいて設立されているわけではない」と回答したものが17件で25.76%、「宗祖の精神に基づいて設立されている」と回答したものが3件で4.55%という結果であり、数値の上では、設立の理念にせよ宗教行事にせよ、通仏教的な要素がより多く現れていることがあげられる。一概に「仏教社会福祉」といっても、その立脚点を「通仏教的理念」に求めるのか、「宗祖・教団の理念」に求めるのかによって、アイデンティティの持ち方には少なからずの差異が生じるはずであり、その意味において、天台宗に現れている傾向は興味深いものであるといえよう。今後、他教団との比較の中で、より詳細な分析を行っていきたい。

問3-6および問3-7は、当該施設の持つ仏教的要素を外部に向けてどのように明示しているのかを明らかにするための項目である。先にも触れたが、地域社会において仏教社会福祉事業・実践がどのようにに関わり、またどのように受け入れられていくのかは重要である。その観点で調査結果をみると、求人に関しては「仏教理念に基づく施設であることを明示している」との回答が56.06%、「明示していない」との回答が43.94%、利用者に対する説明では「仏教理念に基づく施設であることを明示している」との回答が51.56%、「明示していない」との回答が48.44%であり、僅かな差ではあるが、利用者に対する説明時よりも、求人募集時で説明する際に仏教理念に基づく施設であることを明示することが多いことは興味深い結果である。

問3-8は、仏教社会福祉事業・活動と利用者処遇の質との関係を明らかにするための項目である。本項目の趣旨をより明確化するには、本来は利用者側からの意見も同様に調査する必要があるが、今回の調査結果に留めて言えば、「仏教理念に基づく施設のあり方は、利用者にとって処遇の向上につながっていると思う」との回答が6割強（67.69%）を超えており、また「思わない」との回答が1割（6.15%）に留まっていることから、少なくとも実践する側は仏教社会福祉事業・活動が利用者にとっても良い機縁になっていると認識していると考えられる。

問3-9は、各寺院の過去の取り組みについて明らかにするための項目である。天台宗における過去の仏教社会福祉事業・活動を知る上でも有意義な調査結果である。

問3-10は、現時点における寺院としての仏教社会福祉事業・活動に関する考え方を明らかにするための項目である。社会福祉事業関連施設を持たない理由として「寺院として、社会福祉事業以外の実践（布教活動など）に取り組むことでよいと思うから」との回答が4割（43.16%）で最も多い数値を占めている一方、「寺院として、社会福祉事業実践には関心があるが、施設運営には関心がない」と「寺院として、社会福祉事業実践には関心があり、施設運営にも関心はあるが実際には行っていない」の2設問の合計回答数も全体の4割強（48.29%）を占めているところに、仏教社会福祉の今後を考える際の困難さがみられるのと同時に今後の仏教社会福祉の可能性をみることもできるのではないだろうか。つまり、永い寺院経営の中で、（人的にか経済的にか）結果として仏教社会福祉事業・活動が行えていないという現実と、一方で寺院を取り巻く環境改善や支援があれば仏教社会福祉事業・活動に向かう可能性を含んだ調査結果と捉えることができるだろう。このような視点は、本調査後半部分の「ご住職の社会福祉実践について」の集計結果を明らかにすることでより明確にな

ると考えているが、まずはこの数値結果を前向きに捉え、今後の研究分析を進める際の糧としていきたい。

5. おわりに

本調査の後半部分「ご住職の活動実態について」（問4～問10）の報告については、次号にて報告させていただく予定のため、期間が空いてしまうことを御了承下さい。

また、本調査の意義をご理解頂き、全面的にご支援下さった天台宗宗務庁、共通の問題意識のもと調査に協力いただいた渡邊義昭氏、関徳子氏をはじめ、貴重なお時間をさいてアンケートにご協力頂いた各寺院の皆様、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

註

- (1) 仏教社会福祉史研究に関する代表的な先行研究として、辻善之助、橋川正、浅野研真、谷山恵林、守屋茂、吉田久一等等といった諸氏のをあげることができる。
- (2) 本研究の成果は、長谷川俊匡編『戦後仏教社会福祉事業の歴史』・『戦後仏教社会福祉事業史年表』（ともに法蔵館、2007）として刊行されている。
- (3) 2010年9月現在、天台宗のほか、浄土宗、融通念仏宗、時宗、臨済宗・黄檗宗、日蓮宗の各教団の調査が完了している。

浄土宗については、長谷川俊匡、坂上雅翁、曾根宣雄、鷲見宗信、藤森雄介、関徳子、渡邊義昭「浄土宗 社会福祉事業・活動に関するアンケート調査 集計報告（1）」（『仏教福祉』第8号 2005 93～140頁）、長谷川俊匡、坂上雅翁、曾根宣雄、鷲見宗信、藤森雄介、関徳子、渡邊義昭「浄土宗 社会福祉事業・活動に関するアンケート調査 集計報告（2）」（『仏教福祉』第9号 2006 99～128頁）、長谷川俊匡、坂上雅翁、曾根宣雄、鷲見家信、藤森雄介、関徳子、渡邊義昭、吉水岳彦、石川基樹「浄土宗寺院・住職の福祉意識について」（『仏教福祉』第10号 2007 99～128頁）として、融通念佛宗については、藤森雄介、浪邊義昭、関徳子「融通念佛宗 社会福祉事業・活動に関するアンケート報告（1）」（『大源』第56号 25～47頁）、藤森雄介、渡邊義昭、関徳子「融通念佛宗 社会福祉事業・活動に関するアンケート報告（2）」（『大源』第56号 72～99頁）として、時宗については、藤森雄介、渡邊義昭、関徳子「時宗 社会福祉事業・活動に関するアンケート報告（1）」（『時宗教学年報』第34輯 43～75頁）、藤森雄介、浪邊義昭、関徳子「時宗 社会福祉事業・活動に関するアンケート報告（2）」（『時宗教学年報』第35輯 15～51頁）として、臨済宗・黄檗宗については、藤森雄介、関徳子「臨済宗・黄檗宗における社会福祉事業・活動の現状と課題（1）～アンケート結果を踏まえて～」（『淑徳社会福祉研究』第16号 74～102頁）として、日蓮宗については、藤森雄介、渡邊義昭「日蓮宗における社会福祉事業・活動の現状と課題（1）～アンケート結果からの考察～」（『日本仏教社会福祉学会年報』第40号 45～74頁）として、それぞれ、その成果を明らかにしている。

- (4) 天台宗系の社会福祉事業実践の全体像については、(2) 前掲書『戦後仏教社会福祉事業の歴史』において、「第3章 天台宗系」（宮城洋一郎、28～39頁）として、その概要がまとめられている。
- (5) ただし、アンケート調査の依頼方法等によっても回答率が変化している可能性がある点については、注意が必要である。今回の天台宗におけるアンケート調査の依頼にあたっては、調査依頼文及び調査票等関係書類一式を、天台宗務庁より定期的に発送される『宗報』等の発行物に同封して依頼させて頂いた結果として26.35%であったが、例えば、調査依頼文及び調査票等関係書類一式を単体で対象寺院教会に発送した浄土宗、時宗、融通念佛宗では、それぞれ63.21%、47.78%、42.52%と非常に高い回答率であった。つまり、アンケート回答に際してある種のバイアスがかかってしまったと考えること

ができるのであり、今回の26.35%をもって、この数字がそのまま天台宗の社会福祉事業実践に対する宗派特性を現しているとは言い切れない点があることを付言しておく。(各宗の調査結果の詳細については、(2)前掲書をそれぞれ参照のこと。)

※ 本調査は、平成16年度～平成17年度科学研究費補助金(若手研究(B))「現代における仏教系社会福祉事業の実践状況と今後の方向性に関する研究(16730293)」(研究代表者:藤森雄介)に関連して行われた。

(受理 平成22年9月27日)